



# 新理事長メッセージ

真の国際人として

時代が求める「拓殖人材」の  
育成のために

この度、2023年6月17日の理事会にて、理事長に選任されました。光栄ながら、非常に身の引き締まる思いであると共に、拓殖大学の特色である人と人の繋がりをいかにしながら学園共同体として建学の理念の具現化に努めてまいります。

理事長としてみずめざすのは、専門性、国際性、人間性を兼ね備えた「拓殖人材」のさらなる育成です。グローバル化がますます進む社会で、まずは私自身があらゆる職務に携わるなかで自己研鑽を重ね、そして学生の皆さんには多様な文化を理解し、国内外で活躍できる「真の国際人」になっていただく成長環境を整えることが責務と感じております。

私を形成する人間性は拓殖大学にありました。入学した1973年の当時はまだ八王子校舎（現八王子国際キャンパス）が存在しておらず、茗荷谷校舎（現文京キャンパス）も現在のようにモダンな雰囲気はありませんでした。しかしながら、大先輩であり史上最強の柔道家と言われた木村政彦先生に憧れて門を潜った私の拓大生活は、まさに柔道に明け暮れる4年間であり、木村先生による熱の籠った厳しい指導が私の原点になっています。

心に深く刻まれているのは、腕立て伏せを1000回行うというトレーニングです。入部当初の私にとっては無理難題と心底思ったものです。そこで木村先生から教わった「為せば成る」という教えに仲間たちと懸命に取り組み、その中で少しずつできるようになり、やがて達成しました。この腕立て伏せ1000回を通じて得

た「為せば成る」の教訓は、その後の人生を力強く支えるものとなりました。

3年次には大学主催のシンガポール研修に参加し、日本とは異なる文化に触れたことで、「柔道に魅せられた日常」としての景色が一気に広がる転機となりました。4年次の春休みにはヨーロッパ周遊でフランス、ベルギー、オランダ、デンマーク、ドイツ、オーストリア、スイス、イタリア、スペインを巡りました。それぞれの土地に根付いた世界の多彩な文化に魅了され、大学卒業後の留学決意に至ります。

私が選んだのは、拓殖大学の先輩が暮らしていたスペインです。北部に位置するオビエドという街で、現地の方々に柔道を教えながら、独学での留学生活がスタートしました。スペイン語は全く話せませんでしたが、ここでも「為せば成る」の教訓をいかして懸命に学び、最終的には大学、大学院へと進み、研究にも問題なく取り組めるほどになりました。ここで諸先輩方に脈々と受け継がれている「海外雄飛の精神」を私も享受できた気がしました。

帰国後は、当時開学したばかりでスペイン語学科を有する神田外語大学（学校法人佐野学園）に入職することに。2018年4月より拓殖大学の評議員を務めることになった際には、心の底から嬉しさが溢れてきたことを今でも覚えています。

そして現在、AIなどの最先端技術がさらに発達していく中で、必要とされるのは多くの経験から生まれる「知恵」だと私は思います。なぜなら、情報としての知識は先端技術を活用すれば得られますが、それを

使いこなすためには「知恵」がなければならぬからです。これまでの私の人生経験で学び、得てきた「拓殖人材」としての素養はまさにこの知恵に行き着きます。

学生の皆さんには、在学中に多くのことに挑戦し、経験とともに知恵を身につけてほしいと考えています。そのような機会を学内でもさらに増やすべく、2030年に向けた中長期計画「教育ルネサンス2030」を推進して内容をより充実させていく所存です。その核の一つである「オレンジプロジェクト」は、教職員と学生が一丸となって取り組む大学改革プロジェクトです。それぞれの立場を超えて研究の深化、大学の未来を切り拓いてまいります。また、拓殖大学学友会の方々にもご協力いただきながら卒業生と在学生在が交流する機会を国内外問わず増やし、横だけでなく縦の繋がりも強化してあらゆる人とのネットワークの充実を図ります。

学生の皆さんの成長はもちろん、大学の発展に努めて参りますので、保護者や卒業生の皆様にも一層のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

学校法人拓殖大学 理事長

おかど たくみ  
**岡戸 巧**

1954年埼玉県生まれ。1977年に拓殖大学政経学部経済学科卒業後、スペインに渡る。1985年9月スペイン公立オビエド大学地理歴史学部卒業、同大学大学院で学んだ後、1987年に帰国。1988年7月に学校法人佐野学園に職員として入職。同学園で執行役員、副理事などを務めた後、2018年より拓殖大学の評議員に就任。監事、常務理事などを経て2023年6月に理事長に選任される。